

松原寺通信

第十六号 令和七年二月十八日
発刊 松原寺 彦根市松原二丁目
発行 責任者 佐々木 亮 釋亮真

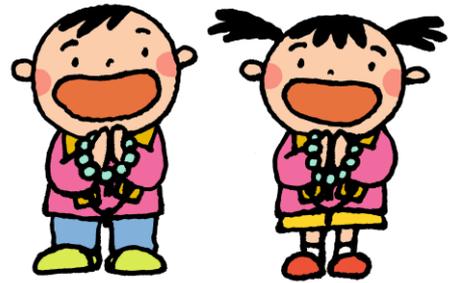
お香について

去年の後半から、喉の調子がよ
くなく、弟に法務を助けてもら
う事が例年より多くありました。今
はだいぶ良くなりましたが、お線
香の煙を吸うと咳や痰がでるの
で、しばらくはお線香を使わずの
お勤めにさせて頂く場合があります
ますのでお許し下さい。もともと
喘息もちなので煙が苦手です。お
線香の中には、めっちゃ煙が出るタ
イプの物もあるので、うまく調整
しながら使っていこうと思いま
す。

さて、そんなお線香についてで
すが、浄土真宗本願寺派における
作法があるのをご存知でしょう
か？今回は、そのお線香のルー

とその作法について紹介させ
て頂こうと思います。

まず、線香は『香』の中に分
類されるインド発祥の礼拝の
用具です。線香のほかに、塗香、
割香、抹香、沈香があります。
伽羅とよばれる香木は有名で、
沈香などにして使われる場合
があります。恐ろしく高い値
段がするそうです。一度お付き
合いのあるお寺さんで香りを
かいだ事があるのですが、それ
はそれは芳しい何とも言えな
い香りがしました。一度みなさ
さんと一緒に本堂で『聞香』で
も、と言いたい所ですが、残念
ながら松原寺にはありません。
作法について、最初に法事や
お葬式などで行う『お焼香』に
ついて説明します。まずは、



さい。

次に、お仏壇で使うお線香につ
いてですが、こちらはシンプルで
「立てない」と覚えて下さい。お
線香を立てると、なんかカッコい
いしサマになりますよね。しか
し、我々はお線香を折って使いま
す。古代インドなどでは香木を削
って火でたいていました。つまり
立てるものにも、お線香自体存在
していません。お線香は『香』
の中でも一番新しい形態です。そ
んな中、我々はお線香をルーツの
形に近づけて使っているのです。

お知らせ

・朝の会 毎月第2土曜日6時半
歎異抄を皆で読んでいます。そ
の後、住職の法話。現在第八章。
※会員制ではありませんのでご
自由にお参り下さい。

・初参式 5月25日 午前
・盆会 8月3日